

普及活動情勢報告（令和3年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

環境データを活用した管理モデルの作成に向けて ～ニラの生育調査～



生育調査の様子

管内のニラでは、環境データを活用した栽培管理を確立するため、昨年度から環境測定装置導入農家3戸を対象に、環境データの収集および生育調査を実施しています。今年度も栽培管理モデルの作成を目標に7月から調査を開始しました。

昨年度の実証で株養成期にハウスをフルオープンにし、日中のハウス内温度を下げると初期生育が向上する傾向が見られたことから、今年度も再度検証を行っています。

今後もJA営農指導員と隔週で生育調査を実施し、環境データと生育の関連について検証していきます。

天敵利用技術の向上を目指して ～ミョウガ IPM 防除効果の検証～



天敵放飼の様子

当課では、管内の促成ミョウガ栽培で利用が進んでいる天敵昆虫の防除効果を高めるため、天敵の春放飼とハウスの開口部へのネット展張による防除効果を検討しています。

今年度は、実証ほ3カ所で3月に天敵を放飼し、うち1カ所で天窗・サイドに防虫ネットを張りました。実証ほの農家からは、「昨年に比べ放飼から8月までの害虫の発生が抑えられた」との声があり、春放飼の効果が見られました。また、防虫ネットは5月以降に害虫の飛び込みを抑える効果がありました。

今後は、調査結果を基に関係機関と協力して天敵放飼マニュアルを改訂し、生産者に天敵の効果的な利用を啓発していきます。

今年はお試し収穫 ～梶原町ブドウ事業の収穫開始～



美味しいワイン造りのために

9月8日、梶原町営のブドウほ場で梶原町役場職員を含む5名で白ブドウ品種「シャルドネ」の収穫を行いました。

（一社）津野山畜産公社の複合経営拠点構想のひとつにワインの生産販売があり、令和2年5月に加工用ブドウの「シャルドネ」「マスカット・ベリーA」を植え付けて栽培しています。今回収穫したブドウは、香南市にある井上ワイナリー醸造所に輸送し、ワインに加工されます。

当日、当課の職員は、収穫作業手順の確認や作業時間の調査など、ブドウ栽培マニュアル作成に向け基礎データを収集しました。

当課は今後も関係機関と連携して、梶原町でのブドウ栽培技術の確立を目指し支援していきます。

集落活動センターの農業部門の経営内容把握に向けて ～複式簿記勉強会～



参加者がパソコンで簿記ソフト操作を体験している様子

集落活動センターおおのみきたは、今年からキクラゲやイタダリの栽培・加工に取り組みはじめ、部門別収支の把握やみなし法人としての会計管理が必要になっています。そこで、9月14日に集落活動センターおおのみきた事務所で、会計担当者等3人を対象に複式簿記勉強会を開催しました。

当課職員が講師となり、複式簿記の基礎について説明した後、仕訳の練習や簿記ソフトの操作体験を行いました。参加者からは、説明途中にも積極的に質問が出され、簿記ソフトの操作体験でも躊躇することなくいろいろな操作を積極的に試していました。

使用する簿記ソフトの導入後は、部門別収支が把握できるよう、初期設定や仕訳入力等について支援していきます。